

妊娠・出産期のドメスティック・バイオレンス

医療現場における被害者支援と予防に向けて

Domestic violence during the perinatal period

松島 京

MATSUSHIMA Kyo

近大姫路大学

(University of KinDAI Himeji)

key words: domestic violence, sexual health/rights, perinatal period

【研究の目的と背景】

本研究は、妊娠・出産期のドメスティック・バイオレンス（以下 DV と略す）に着目し、DV の被害者支援および防止の具体的な取組としての、妊娠・出産期における助産師の果たす役割と今後の可能性を明らかにし、DV 被害者対応のシステムを構築するための方策を見出すことを目的とする。日本における DV 研究は、民間シェルターの活動や欧米の DV 防止に関する法律の紹介や民間団体による全国実態調査などを基盤として、1990 年代後半から急激に展開されるようになった。現在は、家庭内における暴力について社会的な認知が高まり法整備化も進んできた。その中で、被害者のサポート及び加害者の再教育や家庭内の暴力を予防するための実践的取り組みについての考察も進んでおり、中でも、医療機関における DV 対応については、日本でも注目されてきている（友田 2006, 宮地 2008）。暴力による傷害を負った時の治療や診断書の作成などの場面で医療機関を利用することは多く、そこでの DV 被害者支援のアプローチは重要である。DV 対応機会の可能性の高い医療機関の中でも、出産前の検診時や出産後の訪問時まで含めて考えれば、妊娠・出産期の医療現場はその可能性がいっそう高くなると考えられ、且つ助産師の果たす役割は非常に大きい。

【対象と方法】

調査対象者は、スノーボールサンプリング手法を用いて調査協力依頼をした助産師 8 名（助産院に勤務、病院に勤務、新生児訪問等地域活動を行う。中には、DV 被害者支援活動に関わっている者もいる）。DV ケースへの対応の有無（対応をした場合の具体的な対応方法）、妊娠・出産期の妊産婦とそのパートナーとの関わりの中で感じたこと、助産師自身の援助について、DV ケース対応について、などに関して、半構成的質問によりインタビューを行った。なお、倫理的配慮として、研究の趣旨及び目的、結果は調査目的以外には使用しないこと、個人が特定されないような記録を行うことを説明し、了解を得た後に調査を実施した。また、調査段階で緊急支援が必要とされる場合は、DV 被害者支援機関との調整を速やかに行えることなども説明した。

【結果】

助産師は、援助の場面で、DV に関わる相談を受けたり援助をしたりしていることが明らかとなった。また、妊娠・出産期に、当事者が抱える夫婦間の葛藤・トラブ

ルが見受けられることがあり（ただし、これらは必ずしも DV となるものではない）、助産師は、それらの相談を受けていることも明らかとなった。こうしたことをふまえ、助産師は、DV ケースを発見する際の視点や、発見した際の適切な対応方法、DV 防止用や活用できる社会資源についての情報を求めていることも明らかとなった。

【考察】

これら結果をふまえ、「妊娠・出産期における DV」問題を焦点化することの重要性を提示したい。それは、DV における性的暴力の結果としての妊娠・出産（あるいは中絶）ということと、妊娠・出産期に DV を受けることは胎児にも影響をするという点による。そして、セクシュアル・ヘルス/ライツやリプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点からすれば、ジェンダーやセクシュアリティに起因する暴力や搾取を、公衆衛生問題として捉え、その問題としていかに解決するかが、セクシュアル・ヘルスやリプロダクティブ・ヘルスを高めるためには必要なことである（WHO 2005）。セクシュアル・ヘルスは、性的な事柄だけではなく、他者との関係も含めた個人のトータルな生においてこそ、その健康な状態が「well-being」な状態として立ち現れてくることからすれば、DV は、親密な関係における暴力であり、暴力が他者の権利を侵害する行為であるからこそ、セクシュアル・ヘルス/ライツの観点から捉えることが重要であるといえる（松島 2009）。今後、医療現場における DV ケースへの適切な対応を促進するシステムづくりが必要とされるが、その際には、DV をセクシュアル・ヘルスの課題として捉え、その対応をセクシュアル・ヘルス・プロモーションとして位置づけることが求められる。

【引用文献】

- 友田尋子, 2006, 『暴力被害者と出会うあなたへ - DV と看護』
- 松島 京, 2009, 「妊娠・出産期のドメスティック・バイオレンスとは - セクシュアル・ヘルス/ライツの課題として捉えるために」『近大姫路大学教育学部紀要』, 創刊号: 29-38.
- 宮地尚子, 2008, 『医療現場における DV 被害者への対応ハンドブック 医師および医療関係者のために』明石書店。
- WHO, 2005, Sexual health: a new focus for WHO (Progress in Reproductive Health Research).